

## 甲殻類

今回の調査では下表の9科10種を確認している。

甲殻類のエビの仲間は水生であるが、オカダンゴムシやフナムシ類は陸生の甲殻類である。

水生甲殻類の仲間は、一番ポピュラーなのがアメリカザリガニで、食用あるいはウシガエルの餌として移入された外来種である。1970年代には非常に沢山の個体が、川や沼などに生息していた。しかし最近は沼や川には少数がいるものの、市内では案外見つけるのが難しくなった。アメリカザリガニの減少理由はよくわからないが、農薬や、オオクチバスやブルーギルなどの新捕食者の出現があるのかもしれない。また、サワガニは今回の調査では出現記録が無いが、湧水のあった田圃脇の斜面や、小さな水路などにも生息している。たぶん、よく探せば見つけることも可能だろう。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	甲殻類	カブトエビ科	カブトエビ
2		ザリガニ科	アメリカザリガニ
3		テナガエビ科	スジエビ
4			テナガエビ
5		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ属 sp
6		ハウネンエビ科	ハウネンエビ
7		ヨコエビ科	ヨコエビ科 sp
8		オカダンゴムシ科	オカダンゴムシ
9		ワラジムシ科	ワラジムシ
10		フナムシ科	ニホンヒメフナムシ



スジエビ

### テナガエビ科 スジエビ

川よりも沼などに多く生息する。溜池では多数の個体が生息していたが、最近はバスなどに捕食されたのか、少なくなった。写真の個体は都幾川で捕えたが、1匹しか獲れなかった。

### ヌマエビ科 ミナミヌマエビ属 sp

3 cm くらいの小さなエビで、2000 年頃には市内の川に出現したと友人から教えられた。以前の川にはヌカエビが生息していた。ミナミヌマエビは観賞魚の水槽の掃除役として飼われていたのが、自然の川などへの放流によって爆発的に増えたようだ。今では川や池、小さな堀などどこにでも見られる。



ミナミヌマエビ属 sp ♂

### ホウネンエビ科 ホウネンエビ

田植えの終わった直後の水田にいきなり出現する 2 cm 程度のエビで、脚を水面に向けて、逆さ向きで泳ぐ。



ホウネンエビ

### カブトエビ科 カブトエビ

この種も田植えの終わった水田に突如、出現する。田んぼの泥を掻き混ぜるので、雑草の防除になるという話を聞いた。瀬戸内海などに棲むカブトガニは本種と同じような形態をしているが別種、本種は 3 cm くらい、カブトガニは 30cm もある。



カブトエビ

### アメリカザリガニ科 アメリカザリガニ

アメリカ原産の外来種で、河川、小水路や溜池などに生息する。以前には非常に個体数も多く、ザリガニ釣りは子供でもできる遊びの対象であった。水田などの畦に穴を開けて潜み、植物や小動物なども食するが、最近は個体数が減っている。



アメリカザリガニ